

## 『信頼関係とQOLの相乗効果』

～大丈夫！一緒にがんばりましょう！～

社会福祉法人長生会  
豊仙苑訪問介護センター 孫六 利恵  
堀内 千春

事例:Aさん

- ・男性 82歳
- ・要介護2
- ・障害高齢者の日常生活自立度 A2
- ・認知症高齢者の日常生活自立度 II B
- ・妻と2人暮らし(長女 関東在住)
- ・既往歴
  - ・脊柱管狭窄症
  - ・脳梗塞
  - ・心房細動
  - ・不整脈
  - ・認知症:幻覚・妄想・独語

【生活状況】

- ・平成26年11月妻が入院。ショートステイを利用。精神的に不安定になり3日で退所。
- ・脊柱管狭窄症、脳梗塞後遺症にて**下半身の関節可動域に制限があり日常生活に支障あり。**
- ・排泄は紙パンツ内で行う。
- ・幻覚、幻聴があり大きな声をあげる。
- ・体重増加 **84kg。**
- ・ベッドで過ごす時間が多く歩行が困難。
- ・椅子やベッドから滑り落ちてしまう事が多くなり近所の人に手伝ってもらいベッドへ移動している。

平成28年2月19日 面接

訪問すると・・・妻がケアマネに怒っている。

**『介護保険は助けてくれない！』**

滑り落ちた時にケアマネが対応してくれた時があった。  
妻はケアマネが対応してくれると思いついていた。

↓

ケアマネの業務と訪問介護の業務を説明するが・・・  
妻は納得いかず**『何で助けてもらえないの！』**  
**『困っているのに！』**  
**『介護保険料払っているのに！』**  
不信・不満を訴えられた。

- ・妻とケアマネとヘルパーで話し合う。妻に少しずつ笑顔もみられるようになる。奥の部屋からはAさんの大きな声が聞こえてくる。
- ・定期利用は拒まれたが・・・  
滑り落ちた時の支援の依頼を受けた。

**『1人で移動できない時は豊仙苑に電話下されば大丈夫です。宜しくお願いします。』**

- ・Aさんと対面。挨拶に笑顔で答えてくれる。

**『これから奥様と一緒にお手伝いさせていただきます。宜しくお願いします。』**

平成28年 3月 1日 初回訪問

14:30 妻から電話が入る。  
**『ベッドとベッドの間に滑り落ちた！手伝って欲しい！』**

14:50 ヘルパー到着。  
台所まで移動し椅子(キャスター付)に移ろうとしたら滑り落ちた。妻はAさんの上半身に三尺を巻きベッド下まで引っ張って来たとの事。

- ・低床ベッド一番低くする。
- ・右側臥位介助し上体を起こす。
- ・ヘルパーが腰を持ち上げベッドへ移動する。

- ・痛みの訴えなく、安心された様子。
- ・端座位になり、お蕎麦を食べ始める。
- ・妻も笑顔がみられる。
- ・妻から3月3日の受診の送り出しと迎え入れ支援の依頼を受ける。→ケアマネに報告。
- ・新たな支援内容追加となる。
- ・その後3月4日・8日・12日・16日と支援実施。

平成29年 3月 16日 緊急時訪問

- 2:00 豊仙苑に妻から電話が入る。  
『動けなくなったから助けて欲しい!』
- 2:15 ヘルパー到着
- トイレにて排便。便汚染の為、浴室へ車椅子で移動。立ち上がろうとした時、膝折れし座り込んでしまったと妻より説明がある。下半身裸、脱衣場にヒーター使用。Aさん夫婦の声 『よく来てくれた。助けてね...』
- ・汚染部分清拭
  - ・車椅子への移動困難。シーツを臀部下に敷き妻と引っ張りベットまで移動。
  - ・ベット移動介助
  - ・再度、清拭、衣類交換実施。

#### Aさんと妻の変化

- ・訪問回数を増す毎にAさんや妻の笑顔や会話が増えた。
  - ・Aさんの独語が減った。
  - ・Aさんが『次はお風呂に入りたい。』と意欲がでてきた。
- 『豊仙苑に電話をすれば助けてくれる。』
- 『1人ではない。ありがとう。』
- このような言葉もいただき・・・
- ☆3月は信頼関係の基礎作りができた。

#### 入浴支援への取り組み

- ☆4月より定期利用(月・木) 入浴支援始まる。
- ・ヘルパー2人対応。
  - ・脱衣場から洗い場まで車椅子移動。
  - ・浴槽に入る時、股関節の可動域に配慮。  
⇒『1・2・3・4・5』と足上げてから浴槽に片足づつ入れる。
  - ・4月より男性ヘルパー配属。Aさんの安心感が増す。
  - ・浴槽内で洗身・洗髪実施。

#### 入浴支援への取り組み

- ☆4月より定期利用(月・木) 入浴支援始まる。
- ・ヘルパー2人対応。
  - ・脱衣場から洗い場まで車椅子移動。
  - ・浴槽に入る時、股関節の可動域に配慮。  
⇒『1・2・3・4・5』と足上げてから浴槽に片足づつ入れる。
  - ・4月より男性ヘルパー配属。Aさんの安心感が増す。
  - ・浴槽内で洗身・洗髪実施。
- Aさんは、鼻水が止まらない不快感・右頬のできもの痛み・不安感もあり入浴中、大声をあげた。

#### 入浴の手順方法の見直し

- ・サービス担当者会議の際に、訪問看護師や福祉用具担当者に現在の入浴手順を確認し、アドバイスを受けた。



- ① 入浴時の動作がスムーズに行えるよう、訪問看護でリハビリを行う。
- ② 福祉用具の有効的な使用方法の提案。

### 入浴の手順方法の見直し

・サービス担当者会議の際に、訪問看護師や福祉用具担当者に現在の入浴手順を確認し、アドバイスを受けた。

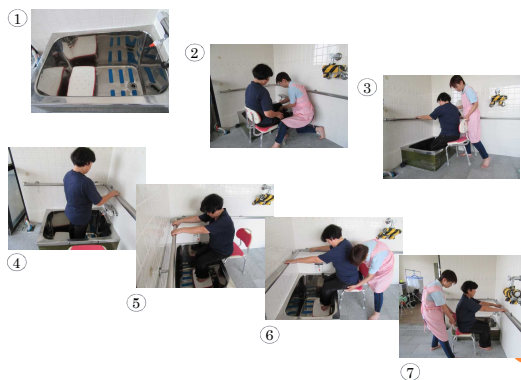


- ① 入浴時の動作がスムーズに行えるよう、訪問看護でリハビリを行う。
- ② 福祉用具の有効的な使用方法の提案。



ヘルパーは新たに手順書を作成した。

### 入浴の手順方法



### 手順方法見直し後の成果

- ・Aさんと妻は、各事業所がチームとなって関わってくれている事が確認できた。→**安心感に繋がった。**
- ・鼻水や右頬のできものは受診にて軽減し体調不快がなくなった。
- ・入浴にも慣れ、大声を出さなくなった。
- ・脱衣場から洗い場まで、手すり歩行が可能になった。
- ・洗身、洗髪はシャワーチェアで行える様になった。
- ・妻はAさんの入浴中は家事を行う余裕ができた。

☆遂にヘルパー1人対応で入浴ができた！！

### 経過記録

- ・緊急時訪問(滑り落ち)の回数減少  
・3月→4回 ・4月→1回 ・5月→1回  
・6月からは・・・0 滑り落ちる事が無くなった！
- ・7月には**トイレでの排泄**ができるようになった！  
廊下も**手すり歩行**ができるようになった！
- ・8月には2人で**床屋へ出かける**事ができた！  
天皇陛下のお言葉も涙を流しながら見ていた。
- ・車椅子で**過ごす時間**が増え、妄想、幻覚症状が無くなり日常生活が**明るく活動的**になった。

### このまま2人での生活が続くと思っていたが...

- ・10月上旬 20時30分 妻より豊仙苑に電話が入る。
- ・『脳梗塞で入院する事になった。主人が1人で家に居るから介護してもらえないか』との内容。  
ケアマネに連絡。指示を待つ。
- ・Aさんはショートステイを利用する事に決まった。
- ・22時30分 妻の弟、ケアマネ、ヘルパーとAさん宅で待ち合わせる。ヘルパーは尿汚染の処理、衣類交換、水分補給、外出介助実施。

- ・妻の状態: 自宅で右半身が動かなくなり救急搬送。  
病院到着後は右手が少し動き話にはできる状態。



- ・妻は回復し自宅に戻ったがAさんの介護は困難となりAさんは療養型施設へ入所となった。



- ・3月のある日、買い物支援をしていたヘルパーと妻が偶然出会う。妻から声を掛けてくれた。『あの時はありがとう！私も今はリハビリ頑張ってるよ！お父さんは今でもヘルパーさんの名前言ってるよ！』 嬉しい言葉だった♡

最後に・・・

豊仙苑訪問介護センターのモットーは『寄り添う介護』です。

寄り添う事で少しずつですが信頼関係を築く事ができました。

『大丈夫ですよ！』『一緒にがんばりましょう！』と労い、労いの声掛けを実践し、安心して頂ける支援を心掛けました。

できる事が増える喜び、自信は表情に現れます。

住み慣れた家での生活が続けられますように・・・♡

【プライバシー保護の為、一部の記載内容に対して論旨に影響を生じない程度の変更あり】

## Aさん宅間取り

